

授業科目	看護診断と看護過程	単位数	1	時間数	3 0					
担当者名	内村 由美子	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	1	開講学期 2				
科目目標	対象の持つ健康上の問題を明らかにして、その健康問題を解決するための系統的で意図的な思考過程としての看護の展開方法を理解する									
授業計画	授業方法	授業内容								
1. 2.	講義	看護の基盤となる考え方								
3.	講義	1) 問題解決過程 2) クリティカルシンキング 3) リフレクション 4) 問題志向型システム 5) 臨床判断								
		看護モデルとアセスメントの枠組み ゴードンの 11 の機能的健康パターン他								
4.	講義・DVD 視聴	情報とは、情報収集・看護過程演習の事例提示 (脳梗塞)								
5.	グループワーク	事例の情報のクラスタリング								
6.	講義・グループワーク	アセスメントとは、事例のアセスメント								
7.	講義	看護診断： 1) 看護診断の種類 (問題焦点型、リスク型、ヘルスプロモーション型、シンドローム型) 2) 共同問題								
8.	グループワーク	事例の看護診断、問題の明確化 (関連図)、事例の関連図作成								
9. 10.	講義・グループワーク	看護計画： 1) 目標・成果・成果指標 2) 介入計画 (O-P、C-P、E-P)								
11. 12.	講義・グループワーク	事例の看護計画の立案								
13.	講義・演習	実施・評価： 1) SOAP 形式 2) 看護計画の評価 看護計画の実施・評価 (SOAP 記録)								
14.	講義	医療における記録								
15.	試験	まとめ、筆記試験 (1 時間含む)								
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 I (医学書院) 看護がみえる vol.4 看護過程 (メディックメディア)									
参考書	系統看護学講座 専門分野 脳・神経 (医学書院) 看護診断ハンドブック (医学書院) NANDA-I 看護診断 定義と分類 (医学書院) 疾患別看護過程 (医学書院) 症状別看護過程 (医学書院) 臨床検査データブック (医学書院)									
評価方法	筆記試験 (70%)、演習参加度 (10%)、課題・演習成果 (20%) で総合評価									
備考	紙上事例を用いて看護過程と看護診断を学習します。									

授業科目	呼吸・循環調整と生体機能のモニタリング		単位数	1	時間数	30									
担当者名	内村 由美子	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	2	開講学期									
科目目標	生命活動を支える呼吸・循環・体温調整および生体機能のモニタリングの技術を理解する														
授業計画	授業方法		授業内容												
1.	講義	呼吸管理の基礎知識、呼吸困難とアセスメント													
2.	講義	酸素療法（酸素吸入療法） 1) 酸素供給システムと酸素流量計 2) 酸素投与器具とその特徴 3) 中央配管法と酸素ボンベ													
3.	演習	酸素療法の実際 1) 中央配管法 2) 酸素ボンベ													
4.	講義、演習	排痰ケア 1) 体位ドレナージ 2) 咳嗽介助、ハフィング 3) 吸引（一時的吸引：口腔・鼻腔・気管内吸引）													
5.6.	演習	口腔・鼻腔・気管内吸引の実際													
7.	講義、演習	吸入													
8.	講義、演習	胸腔ドレナージのしくみと管理													
9.	講義、演習	人工呼吸療法 1) 換気方法 2) 人工呼吸器作動中の管理													
10.	講義	体温管理の技術 1) 発熱時の援助 2) うつ熱時の援助（熱中症） 3) 低体温時の援助													
11.	講義、演習	末梢循環促進ケア（弹性ストッキング他）													
12.	講義	救命救急処置技術、止血法													
13.14.	演習	一次救命処置（BLS）													
15.	まとめ、試験	まとめ、筆記試験													
教科書	系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学 基礎看護技術II (医学書院)														
参考書	系統看護学講座 別巻 救急看護学 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護 (医学書院) 基礎・臨床看護技術 (医学書院) 看護がみえる Vol.2 臨床看護技術 (メディックメディア)														
評価方法	筆記試験（100%）で評価														
備考															

授業科目	与薬に伴う援助技術		単位数	1	時間数	30									
担当者名	田中 清美	実務経験	臨床看護実践・教育	学年	2	開講学期									
科目目標	1. 薬物療法の意義・目的が理解する 2. 薬物療法を受ける患者に必要な援助の方法を習得する 3. 安全に与薬を行うシステムのあり方について理解する														
授業計画	授業方法		授業内容												
1.	講義	与薬に関する基礎知識 1) 剤形と投与経路 2) 法律と管理 3) 看護師の責任と役割													
2. 3.	講義	与薬の適応と原則 1) 誤薬・誤認防止 2) 経口・口腔内与薬 3) 吸入 4) 点眼 5) 点鼻 6) 塗布 7) 直腸内与薬法													
4.	講義	注射の適応と原則 1) 注射の種類と特徴 2) 物品の取り扱い 3) 安全対策													
5. 6.	演習	演習：注射器の取り扱いと薬液の吸い上げ													
7.	講義	注射法の実際 1) 皮下注射 2) 皮内注射 3) 筋肉内注射													
8. 9.	演習	演習：筋肉内注射の実際													
10.	講義	注射法の実際 1) 静脈内注射 2) 点滴静脈内注射の管理													
11. 12.	演習	演習：点滴静脈内注射の実際													
13.	講義	注射法の実際 1) 中心静脈カテーテル 2) 輸液ポンプ・シリンジポンプ													
14.	演習	演習：輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い													
15.	講義(1時間)	輸血の管理													
16.	試験(1時間)	筆記試験													
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 基礎看護技術II (医学書院)														
参考書	看護がみえる vol.1 基礎看護技術・vol.2 臨床看護技術 (メディックメディア)														
評価方法	筆記試験(80%)、演習の取り組み・成果(20%)で総合的に評価														
備考	解剖生理学、看護の中の物理、薬理学の知識が必要になりますので、予習復習をして講義に臨んでください。注射針を使用しますので事故を起こさないように十分留意して臨んでください。注射針の使用は安全のために教員のもとで行いますので、自主的に学生のみで時間外に演習を行うことはできません。														

授業科目	看護研究	単位数	1	時間数	15	
担当者名	濱田 美由紀	実務経験	教育	学年	2	開講学期
科目目標	看護研究の意義、研究の倫理、ならびに研究方法論についての理解を深め、物事について深く考えたり、調べたりすることの必要性を理解することで探求心を養い、研究的態度を身に付ける					
授業計画	授業方法			授業内容		
1.	講義	看護研究とは 看護研究の始め方 リサーチクエスチョンを立てる 研究における倫理的配慮				
2.	講義	研究の設計と方法の選択 質的研究デザイン				
3.	講義	量研究デザイン、実験研究、システムティックレビュー、他				
4.	講義	データの収集 データの分析				
5.	講義・演習	情報の探索と吟味 文献探索の方法 文献レビューとその方法				
6.	講義・個人ワーク	研究計画書の作成				
7.	講義	研究を伝える 研究結果のまとめ方論文作成・学会発表				
8.	試験	試験				
教科書	系統看護学講座 別巻 看護研究 (医学書院)					
参考書	看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 (照林社)					
評価方法	課題レポート (100%)					
備考	演習・個人ワークは情報科学室を使用します。各自でUSBを準備してください。					

